

国立研究  
開発法人 海上技術安全研究所 国際会議報告

会 議： 国際標準化機構（ISO）船舶及び海洋技術専門委員会（TC 8）  
救命及び防火分科委員会（SC 1）救命作業委員会（WG 1）ニューオーリンズ会合

開催場所： ニューオーリンズコンベンショナルセンター：米国・ニューオーリンズ

会議期間： 2015年12月1日～3日

参加者： オブザーバーとリエゾンを含む6カ国17名

海技研からの参加者：宮崎 恵子 運航・物流系 運航解析技術研究グループ長  
(国際連携センター併任)

### 概要

国際標準化機構（ISO）船舶及び海洋技術専門委員会（TC 8）のうち、防火関係装置及び救命設備に係る規格について審議する救命及び防火分科委員会（SC 1）傘下の救命設備を扱う第1作業部会（WG 1）のニューオーリンズ会合に参加した。本会合は、年に1度実施されるTC 8/SC 1と同時開催されるWG 1の中間会合である。

この会合では、DIS投票が行われた「膨脹式救命設備の整備－第1部から第5部」の投票結果への対応の審議、「人員回収装置」の規格原案の審議及び「救命艇及び救助艇のためのシーアンカー」の規格改正原案の審議を行った。さらに、新規作業項目について議論した。

### 主な貢献

宮崎は、プロジェクトリーダーとして、「膨脹式救命設備の整備－第5部－膨脹型救助艇」に係る投票結果を踏まえての審議に対応した。また、プロジェクトリーダーとして、これまでの審議経過を踏まえて作成した「救命艇及び救助艇のためのシーアンカー」の規格改正原案について説明し、基本的な合意を得た。さらに、今後の新規作業項目の候補である極海コードに対応する救命設備に関する規格の審議に貢献した。

### 主な審議結果

#### 1 ISO 18079 船舶及び海洋技術－膨脹式救命設備の整備

この規格シリーズは、膨脹部を有する救命設備の整備に関するもので、「第1部：一般規定」「第2部：膨脹式救命いかだ」「第3部：膨脹式救命胴衣」「第4部：降下式生存艇乗込装置」「第5部：膨脹型救助艇」からなる。本規格シリーズは、今年4月6日から7月6日

まで国際規格原案（DIS）投票が行われ、賛成が規定数に達した。それぞれに技術的意見及び文章の間違いの指摘があり、それらに対する修正について審議した。「第3部：膨脹式救命胴衣」については修正案を作成し、WG 1参加者に回章することとなった。それ以外は本会合において修正を終了した。



## 2 ISO 19898 船舶及び海洋技術—人員回収装置

海上に落水した人を回収するための装置の規格である。今年 5 月にパナマで開催された SC 1/WG 1 における審議を受けて修正を行った規格原案について審議した。構成の見直し、内容と表現の修正を進めたが、ごく一部しか審議できなかった。進捗が遅れているため、CD 投票で意見を募集することとなった。

## 3 ISO 17339 船舶及び海洋技術—救命艇及び救助艇のためのシーアンカー

2015 年 1 月にコペンハーゲンで開催された前回の中間会合では、宮崎がプロジェクトリーダーとして作成した第 1 回目の改正原案の主な改正点の内、形状を制限する項目の排除には合意を得られたが、曳航試験における速度については合意を得られなかった。また、同中間会合では、我が国の効力試験の基準を選択肢として取り入れることについては、時間の制限から審議されなかった。

こうした状況を踏まえ、規格が複雑になるのを避けるため我が国の効力試験の基準は省き、我が国の懸案事項である曳航速度の修正に焦点を絞った第 2 回目の改正原案を作成した。さらに、曳航速度修正の正当性を説明する文章を準備し、これらに基づき説明を行ったところ、WG 1 参加者の賛同を得られた。

また、シーアンカーの展開に係る部分で、形状を制限する規定が残っていたので、修正案を作成し、速やかに WG 1 参加者に回章することとなった。この改正原案に問題がなければ DIS 投票に移行し、次回の SC 1/WG 1 までの DIS 投票の完了を目指すこととなった。

## 4 その他の新規規格の状況

「ISO 16706 船舶及び海洋技術—降下式生存艇乗込装置の係留と降下の荷重算定」は、DIS 投票の結果、反対が無かったことにより、ISO 中央事務局が発行の準備をしている。

「ISO 16707 船舶及び海洋技術—降下式生存艇乗込装置の容量の算定」は、DIS 投票の結果に基づく修正が行われ、現在、ISO/TC 8 事務局が FDIS に向け準備をしている。

「ISO 19912 船舶及び海洋技術—イマーション・スーツ及び耐暴露服の整備」は、2015 年 1 月の前回中間会合での審議を受けて修正されたものに対する意見はなく、またプロジェクトリーダーが検討中の部分が残っているため、今次会合での審議はなかった。今後も WG 1 内で修正意見を募り、DIS 投票に向けて原案を作成していくこととなった。

「ISO 19897 船舶及び海洋技術—降下式生存艇乗込装置—氷結試験」は、今年 5 月のパナマでの SC 1/WG 1 における審議以降の修正はなく、今次会合では軽微な文言修正を行い、図が ISO の規定に合致しておらず修正を要することを確認した。

## 5 その他の規格改正の状況

「ISO 15738 船舶及び海洋技術—膨張式救命設備のためのガス膨張システム」は、2014 年 1 月のサザンプトンでの中間会合で、各国から定期見直し時に提出された修正意見を審議しただけで改正原案が作成されていない。プロジェクトリーダーである WG 1 議長が、改正原案の作成を担う人材を募ったが立候補はなかった。

## 6 今後の作業項目の状況

今年 5 月の SC 1/WG 1 において米国から提案され、現在、新規作業項目の投票 (NWIP) にかけている落水者検知技術について情報交換を行った。本項目のプロジェクトリーダーは米国で、NWIP 投票でエキスパートの登録申請も同時に行われている。また、WG 1 では、以前から、極海コードに対応する救命設備に関する規格を新規規格として検討していきたいとしている。



そこで当所も協力して、我が国から、極海コードに対応する救命設備に関する規格の審議資料を今次会合に提出し、内容及び進め方を議論した。その結果、次回 SC 1/WG 1 で、極海コードに関連する救命設備全体の格納及び使用時の温度に関する基準、評価等の整理を行った上で、その後、新規規格にすべき項目について審議することとなった。

さらに、国際海事機関の規則に沿った新規作業項目の可能性として、MODU (Mobile

Offshore Drilling Units) コードに対応した救命設備の審議状況に関する情報提供があった。

## 7 今後の予定

次回の SC 1 及び同 WG 1 会合は、2016 年 5 月末にアイスランドで、WG 1 の中間会合は 2016 年 12 月 7 日から 9 日に開催される予定である。中間会合の開催地は、英国のプールが提案されているが、他にカナダのセントジョンズ及び米国マイアミが候補となっている。